

大黃の活性成分 Rhatannin の BUN 低下作用機作の検討, 日本薬学会第101年会, 1981. 4, 熊本.

3) 日合 獎, 横山弘臣, 大浦彦吉: Saikosaponin 連日投与の副腎機能に及ぼす影響, 日本薬学会第101年会, 1981. 4, 熊本.

4) 横澤隆子, 大浦彦吉, 中川 晔, 福田裕子: アデニン投与による尿酸代謝系に及ぼす影響, 日本栄養食糧学会総会, 1981. 5, 徳島.

5) 横澤隆子, 大浦彦吉, 中川 晔, 福田裕子: アデニンおよび他のプリン体投与によるラットの尿酸代謝に及ぼす影響, 第54回日本生化学会, 1981. 9, 仙台.

6) 大浦彦吉, 横澤隆子, 中川 晔, 岡田敏夫: アデニン投与による尿酸排泄阻害機構について, 第54回日本生化学会, 1981. 9, 仙台.

7) 渋谷眞也, 長澤哲郎, 大浦彦吉: 大黃成分 Rhatannin の窒素代謝に及ぼす影響, 第54回日本生化学会, 1981. 9, 仙台.

4) 荻田善一, 磯部正治, 岩橋寛治, 片山和信, 有馬正高: 毛根を試料とする痛風体質診断法の確立, 日本臨床代謝学会記録 XVII: 246-247, 1981.

5) 荻田善一, 磯部正治, 宇田川千恵子, 関口豊三: ラット・マウス融合細胞における遺伝子発現機構, 遺伝学雑誌 55: 482, 1981.

6) 荻田善一, 磯部正治, 林 眞一: 毛根によるプリン代謝系酵素異常の電気泳動法的解析, 遺伝学雑誌, 55: 481, 1981.

7) 磯部正治, 荻田善一: 柴胡成分のプロテアーゼ活性化機構に及ぼす効果の電気泳動法的解析, 和漢薬シンポジウム 14: 93-96, 1981.

8) 金 溶奎, 荻田善一: ジャコウ成分の生理的効果, 和漢薬シンポジウム 14: 167-171, 1981.

9) 片山和信, 荻田善一: テトラゾリウムによる脱水素酵素染色阻害因子の電気泳動法的解析, 生物物理化学 24: 23, 1981.

10) 山崎弘美, 中西穎央, 荻田善一: アルデヒド脱水素酵素のアガロースゲル薄層電気泳動法による解析, 生物物理化学 24: 230, 1981.

11) 荻田善一, 磯部正治, 林 眞一, 長田尚夫: 毛根を試料とするプリン代謝系酵素の微量電気泳動法的解析, 生物物理化学 24: 251, 1981.

12) 片山和信, 荻田善一: スーパーオキシドジスムターゼの電気泳動法的解析, 生物物理化学 25: 54, 1981.

13) 金 溶奎, 荻田善一: ジャコウによって誘導される arginine peptidase の電気泳動法的解析, 生物物理化学 25: 57, 1981.

14) 若菜茂晴, 富田 武, 荻田善一: ニワトリ羽毛細胞含有酵素蛋白質の電気泳動法的解析, 生物物理化学 25: 53, 1981.

15) 荻田善一, 岩橋寛治, 桃井啓子: pH-indicator 法によるエステラーゼ Zymogram, 生物物理化学 25: 72, 1981.

#### ◆ 学会報告

1) 荻田善一, 岩橋寛治, 桃井啓子: pH-indicator 法によるエステラーゼ Zymogram, 第31回電気泳動学会春季大会, 1981. 6, 東京.

2) 若菜茂晴, 富田 武, 荻田善一: ニワトリ羽毛細胞含有酵素蛋白質の電気泳動法的解析, 第31回電気泳動学会春季大会, 1981. 6, 東京.

3) 荻田善一, 桃井啓子, 岩橋寛治: ウザギにおけるアトロピン「証」体質の薬理遺伝学的研究, 第15回和漢薬シンポジウム, 1981. 8, 富山.

4) 久保喜一, 荻田善一, 金 溶奎: 進化論的アプローチによるジャコウ類似生薬の開発, 第15回和

## 病 態 生 化 学

教 授 荻 田 善 一  
助 教 授 中 島 松 一  
助 手 片 山 和 信  
文 部 技 官 林 和 子

#### ◆ 著 書

1) 荻田善一: ザイモグラム法とアイソザイム, 25(3)1629-1634, 臨床検査, 医学書院 1981.

2) 荻田善一, 林 和子, 岩橋寛治: 毛根を試料とする微量電気泳動法, 9(3)261-268, 検査と技術, 医学書院 1981.

3) 荻田善一: 体細胞遺伝学への期待, 13(13)2-3, 細胞, ニューサイエンス社, 1981.

4) 山村研一, 荻田善一: 哺乳動物キメラの遺伝子発現, 13(13)18-23, 細胞, ニューサイエンス社 1981.

#### ◆ 原 著

1) 金 溶奎, 荻田善一: キイロホソガガンボエステラーゼの生化学および遺伝学的研究, 生物物理化学 25: 85-88, 1981.

2) Yong Kyu Kim, Z. Ogita: Electrophoretic Analysis for the Androgenic Actions of Musk. 臨床化学 10: 218-225, 1981.

3) 荻田善一, 林 眞一, 林 和子: 毛根を試料とする GM<sub>2</sub>- ガングリオシド- シス診断法の確立, 日本臨床代謝学会記録 XVII: 244-245, 1981.

漢薬シンポジウム, 1981. 8, 富山.

5) 荻田善一, 磯部正治, 長田尚夫, 橋中保男, 福西孝信: Adenine Phosphoribosyltransferase 欠損症の遺伝生化学的研究, 日本人類遺伝学会第26回大会, 1981. 11, 福岡.

## 化 学 応 用

教 授 菊 池 徹  
助 授 金 岡 又 雄  
助 手 門 田 重 利  
文部技官 松 田 暁 子

### ◆ 原 著

1) Kikuchi T., Niwa M., Yokoi T. and Kadota S.: Studies on the Neutral Constituents of *Pachysandra terminalis* SIEB et Zucc. VIII. Methyl Migration in the Dehydration Reaction of Pachysonol and Pachysandiol-B Derivatives. Chem. Pharm. Bull. 29: 1819-1826, 1981.

2) Kikuchi T., Yokoi T., Shingu T. and Niwa M.: Studies on the Neutral Constituents of *Pachysandra terminalis* SIEB et Zucc. IX. Structures of Pachysandienol-A and -B, Novel-Type Triterpenes related to Friedelin. Chem. Pharm. Bull. 29: 2531-2539, 1981.

3) Kikuchi T., Kadota S., Yanada K., Watanabe K., Yoshizaki M. and Kimura M.: Studies on the Constituents of Crude Drug "Shin-i" (Dried buds of *Magnolia salicifolia* Maxim.). 和漢薬シンポジウム 14: 101-104, 1981.

4) Watanabe H., Ikeda M., Watanabe K. and Kikuchi T.: Effect on Central Dopaminergic Systems of d-Coclaurine and d-Reticuline extracted from *Magnolia salicifolia*. Planta Medica 42: 213-222, 1981.

5) Namba T., Chun-Ching Lin, Kikuchi T. and Woei-song Kan: Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (I). On "1-tián-hōng (一點癩)." 生薬学雑誌 35: 138-144, 1981.

6) Kikuchi T., Kadota S., Hanagaki S., Suehara H., Namba T., Chun-Ching Lin and Woei-song Kan: Studies on the Constituents of Orchidaceous Plants I. Constituents of *Nervilia purpurea* SCHLECHTER and *Nervilia aragoana*

GAUD (1). Chem. Pharm. Bull. 29: 2073-2078, 1981.

7) Kikuchi T., Kadota S., Suehara H. and Namba T.: New Triterpens from *Nervilia purpurea* SCHLECHTER, an Orchidaceous Plant. Structures of Cyclonervilol and Cyclohomonerilol and chemical Correlation with Cycloeucaenol. Tetrahedron Letters: 465-468, 1981.

8) Kikuchi T., Kadota S., Suehara H., Nishi A. and Tubaki K.: Odorous Metabolites of a Fungus, *Chaetomium globosum* KINZE ex FR. Identification of Geosmin, a Musty-smelling Compound. Chem. Pharm. Bull. 29: 1782-1784, 1981.

9) 中野直子, 加藤弘己, 鈴木英彦, 中尾皖英, 矢野三郎, 金岡又雄: グリチルレチン酸およびグリチルリチンの酵素免疫測定法, 和漢薬シンポジウム 14: 97-100, 1981.

10) Kanaoka M., Yano S., Kato H. and Nakano N.: Glycyrrhetylamine Acids: Synthesis and Application to Enzyme Immunoassay for Glycyrrhetic Acid. Chem. Pharm. Bull. 29: 1533-1538, 1981.

### ◆ 学会報告

1) 菊池 徹, 横井利夫, 新宮徹郎: ツゲ科植物フッキソウからの新トリテルペンの構造について, 日本薬学会第101年会, 1981. 4, 熊本.

2) 菊池 徹, 門田重利, 末原 久, 難波恒雄: 一點癩 (*Nervilia purpurea*) のステロール, 日本薬学会第101年会, 1981. 4, 熊本

3) 菊池 徹, 門田重利, 末原 久, 難波恒雄: 一點癩 (*Nervilia purpurea*) の変形側鎖ステロール, 新ステロール 22-dehydro-24-isopropenylcholesterol の単離と構造, 第53回日本薬学会北陸支部会, 1981. 6, 富山.

4) 菊池 徹, 門田重利, 末原 久, 難波恒雄: 一點癩の新ステロール, ネルピステロール, サイクロネルピラスステロール, 及びジヒドロサイクロネルピラスステロールの構造, 第24回天然有機化合物討論会, 1981. 10, 大阪.

5) 難波恒雄, 経塚真砂, 服部征雄, 門田重利, 菊池 徹: 和漢薬によるウ蝕予防のスクリーニング, 第15回和漢薬シンポジウム, 1981. 8, 富山.

6) 菊池 徹, 門田重利, 末原 久, 西 荒介, 椿 啓介, 矢野 洋: 水道水の異臭味物質に関する研究, 藍藻および真菌類の代謝産物, 日本薬学会第101年会, 1981. 4, 熊本.